

光と風の大地

～北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」～



今月の表紙：新たな年を迎える初日の出
(紹介は14ページ)

2019.1
No.
541

「TOKORO型クリーン農業」の実践



常呂町農業協同組合
代表理事組合長 川 上 和 則

常呂川流域の排水対策への取り組み

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様には輝かしい平成31年の新年を迎えられましたことを心よりお慶び申しあげます。

さて、昨年の本町農業は、春の植付け作業は概ね順調に進みました。が、6月の日照不足と低温により作物全般の生育が停滞し、7月には台風21号と前線による大雨で二度にわたる農地への冠水・浸水を受けました。

その後、天候が回復し小麦収穫に入り、安定した天候のもと引き続き各作物とも順調に収穫することができ、一部

品目により差が生じたものの総じて平年並みの収穫量となりました。

かねてから要請しております常呂川流域の排水対策については国・北海道・北見市とともに取り進めをいたしており、感謝申し上げるところではあります。また、昨年の大雨による被害を受け、あらためて排水機場整備を始め、各整備事業の早期実現に関係機関と連携を取り組んで参ります。

多角的な国際貿易交渉

月に発効されることとなります。そのため、貿易の自由化に向けた対応だけでなく、労働力の確保においても真摯に受け止めていく必要がありまます。また、昨年の月には日米間において「日米物品貿易協定」(TAG)の交渉開始の合意が発表され、今後のTAG交渉において、EPAで合意した以上の厳しい条件を求める懸念があることから、農畜産物が矢面に立たされぬようその動向を注視して行かなければなりません。

業所得増加を目標に取り進めておりますが、振興計画にもあります通り、輪作体系の維持や有機物施用など「TOKORO型クリーン農業」の実践を取り進めていく必要があると考えます。

今後においても、常呂地域を活性化していくためには基幹産業のひとつである農業が元気になることが必要でありますので、安定した農業経営のために必要な生活基盤の維持と発展にも寄与して参ります。

最後に、本年も組合員の皆様が、健康に留意され、常呂農業が更なる発展と成長をめざし、豊穣の秋を迎えて貰うよう心からご祈念申し上げます。

道がそれぞれの役割を果たし、大会決議事項の着実な実践を図つて参りますので、組合員の皆様のご協力をお願い致します。

今後の農業振興

農業を取り巻く情勢は、昨年12月に、日本とEU間における経済連携協定(EPA)について、協定の承認案と、関連法案が可決され、今年2

さて4年目となつた第8次農業振興計画では、コスト削減と生産量の増収安定化と農

た第29回JHA北海道大会において、「北海道150万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』」の実現に向けた中期計画が決議され、今後3年間JHAグループ北海

平成31年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 総
章

組合員並びにJA役職員の皆様には、輝かしい平成31年の新年を迎えたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向けて、日頃より多大なご尽力をされていらっしゃることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

昨年の北海道農業は、春先は気温も高く、農作物の生育は平年並みで推移しましたが、7月の豪雨や台風21号により、農作物の倒伏や落果、農地・農業用施設の倒壊など、全道各地域に甚大な被害が発生しました。

さらにこの月の日に発生した北海道胆振東部地震により尊

い命が失われるとともに、畜産物や農業施設などに未曾有の被害が発生し、道内全域が停電となる「ブラックアウト」の発生により、組合員の営農やJAグループ北海道・農業関係組織の集出荷、輸送、製造、保管体制に多くの影響が生じました。

現在、JAグループ北海道を挙げて、1日も早い復旧・復興に向け、全力でその支援対策に取り組んでいらっしゃいます。

作物別の作況を見ますと、米は、作況指数が90の「不良」、小麦は、天候不順の影響により、収量・品質とも平年を下回る結果、てん菜は、収量・糖度とも概ね平年並み、生乳は、胆振東部地震の影響と、

今後は飼料作物の品質低下などによる生乳生産への影響が懸念されているところです。

国際貿易交渉については、9月27日、日米両国が「日米物品貿易協定」(TAG)の交渉開始に合意したことが発表されました。

そして、この3年間の実践期間のうちに、2019年5月には政府が進める「農協改革集中推進期間」の期限、2021年3月には「準組合員利用規制の調査期限」を迎えていますが、JAグループ北海道としては、改革は自ら行

うものとして、「『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』」の実現に向けて、JAGループ一丸となって、大会決議事項の実践を通じて改革を進めて参りたいと考えております。

さて、昨年11月には、第29回JA北海道大会を開催しました。大会では、前回大会の決議事項を継承し、「農業所得増大」と「担い手確保・育成」

の加速に取り組むとともに、「サポートアーバン」の活動拡大として、地域と共に支える准組合員の皆さんのご意見の把握に、これまで以上に取り組むことを決議しました。

また、協同組合の原点をあらためて見つめ直し、「新たな協同組合」の姿を継続的に討議することも決議しております。今後、組合員の多様な価値観やニーズに対応できる事業運営の展開を検討してまいります。

今年はこの亥年にあやかり、災害がなく、そして組合員の苦労が報われる実り多い豊穣の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶と致します。

亥には、「無病息災」や「安

定期した状態で始動を待つ準備期間」の意味があるということ

であります。

今年はこの亥年にあやか

自由貿易に立ち向かう



明回賦體圖說

委員長 梅田俊則

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、農民同盟の活動に対し、ご理解とご協力をいただいた事に、心より感謝申し上げます。

昨年の常呂町農業の状況を振り返ってみますと、春の播種作業は順調に進んだものの、6月に低温と雨が多い日に悩まされ、7月には2度の大雨で、農地の冠水や浸水の被害を受けました。8月以降は天候がほぼ安定し、各作物の収穫作業や、秋小麦の播種作業は順調に進んだ様です。6月、7月の天候不順による、酪農家の一番牧草の品質低下による本年の乳量や牛の体調への影響が気になるところであります。

「150年」の年がありました。厳しい自然を乗り越えて原生林を拓き、現在の「食料基地北海道」の基礎を築いた先人の苦難は、想像を絶するものだったと思います。その150年目になる昨年12月30日に、私たちの農民組織や、市民団体が反対を続けてきた「TPP11」が、日本の批准に加え、メキシコ、シンガポール、ニュージーランド、カナダ、オーストラリアの批准が終わり、発効となりました。

さらに、日本とEUとのEPA協定についても、国会でのわざかな審議時間にもかかわらず、12月9日に協定の承認案と、関連法案が可決され、今年2月1日に発効されることとなります。

「北海道命名151年」に
なる今年、北海道の農業が、
自由貿易の波に見舞われる年
になってしまったのは、大変
残念なことだと思います。

月以降の帳簿記帳には、10%と8%の確認作業が必要になり、作業が複雑になることが予想されます。

天候に恵まれまして、実り多い1年になりますよう、併せて、盟友、組合員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げまして新年のご挨拶と致します。

「北海道命名151年」になる今年、北海道の農業が、自由貿易の波に見舞われる年になってしまったのは、大変残念なことだと思います。当同盟としましては、これらの自由貿易協定の発効に伴い、地区農連、道農連、さらには農協組織とも協力し、自由貿易の波に耐え得る、常呂町農業の生産基盤、経営基盤づくりのお手伝いをして参りたいと考えております。

また、今年10月には、消費税率が8%から10%に引き上げられます。それと同時に、食品と定期購読される新聞には、8%の軽減税率が実施されます。農家が経営を進めていく中で、2つの消費税率が混在することになります。

月以降の帳簿記帳には、10%と8%の確認作業が必要になります。作業が複雑になることがあります。当同盟といたしましても、この消費税率引き上げと軽減税率の実施に対しまして、青色申告会と協力し、北海道税務課申告会や北見税務署、さらには、佐々木税理士事務所上り逐次、情報を取り寄せ、皆様に報告し、税務作業に混乱が生じないよう行動して参りたいと考えております。

自由貿易の波と、消費税率引き上げの波が押し寄せる今年ですが、この難局を農家の皆様が打破するための一助に農民同盟がなれば幸いかと思つております。

最後になりますが、今年が

天候に恵まれまして、実り
い1年になりますよう、併
て、盟友、組合員の皆様の
層の発展を心よりご祈念申
上げまして新年のご挨拶と
します。

多せし致

新年あけましておめでとうございます。皆様には、希望に満ちた平成31年の新春を、ご家族でお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より普及センターの活動に、ご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。さて、昨年を振り返りますと、融雪期は平年よりも早く、耕起作業は順調に進みました。春まき小麦の播種作業は順調に進み、馬鈴しょの植付けやてん菜、たまねぎの移植作業は平年より早く始まり、順調なスタートを切ることができました。

6月は低温寡照・多雨傾向で推移し、てん菜、玉葱の生育は平年より早く進んだものの、小麦、馬鈴薯、豆類の生



網走農業改良普及センター

所長 上館伸幸

人が残り地域が残る 協同活動の推進

育は停滞しました。

7月前半は大雨が2回あり、常呂川の水位上昇により、約300haもの冠水・浸水被害が発生しました。また、湿害による水ヤケ症状が散見され、玉葱では細菌性病害が多発しました。

7月後半～8月上旬は降雨がほぼ無く、真夏日が続く高温となりましたが、8月中旬は低温寡照、多雨傾向となりました。秋まき小麦の収穫は降雨前に順調に終了しましたが、春まき小麦の収穫作業は降雨の影響を受け、平年より遅れ、さらに穗発芽が多く発しました。

この月の日には胆振東部地震による全道的な停電が発生しました。9月～10月はほぼ平

年並の気温で推移し、馬鈴薯、てん菜、玉葱の収穫は平年並みや早く終了したものの、

生育・登熟が遅れた小豆、牧草2番草、飼料用とうもろこしの収穫は遅れました。本年は水害、長雨、地震による停電などいくつかの災害により被害が発生しました。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

作柄については、極端な気象条件のなか、春まき小麦、馬鈴薯、小豆、飼料用とうもろこしの収量は残念ながら平年を下回りましたが、秋まき小麦、てん菜、玉葱は平年並みや早く終了したものの、

備え、生産部会などの組織を上げた活動の賜と敬意を表します。

普及センターは、今後とも常呂農業の維持・発展のため、人が残り地域が残る活動、担い手の育成・確保重要な病害虫の進入防止など、地域の皆様、関係機関と協働して取り組みを推進して参りますので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びとりますが、本年が輝かしい年となるとともに、皆様の益々のご多幸とご発展をお祈り申し上げ、新年のご挨拶と致します。

これもひとえに、皆様の基本技術の励行、気象災害への

馬鈴薯の原種の生産現場を視察

JJAところ(川上和則組合長)は、今年度の役員による視察研修を11月12日から14日までの日程で実施しました。

今回の研修は11月13日に札幌市で実施される「JJA北海道大会」に併せ、前日の12日に視察した北広島市の「種苗管理センター・北海道中央農場」の内容について紹介します。

種苗管理センター・北海道中央農場は、馬鈴薯の原種の生産及び配布の業務が主体ではあります、そのほかに品種登録に係る栽培試験や種苗検査、植物遺伝資源の保存・増殖を行っています。

馬鈴薯の原種も主力となる「男爵」、「メークイン」については、以前はこの2品種で40%の数量を占めましたが、今は25%まで減つていて品種の多様化が進み、現在は84品種の栽培を行っています。病害虫対策では、黒あし病が発生した問題もあり、その後の対策により改善されていました。

新品種の早期普及のために、現在ではミニチューバ栽培で行っており、培養土やバー・ミキュライトを使用せず、根に細かな霧状で培養液を噴霧して栽培する方法に切り替えることで、多く



今藤部長(左)から馬鈴薯の歴史の説明を受ける役員の皆さん

の収量を確保することに昨年から取り組んでいました。実際に、施設内見学の際には収穫作業が行われており、根に数多くの塊茎が付いていることを確認することができました。

また、案内して頂いた、今藤光幸部長からは「ジャガイモシロシステム」の抵抗性品種の開発の状況を聞き、今後の産地に合う品種作りに向けた貴重な意見交換がされました。

今回の視察では、今藤部長からも積極的な質問が出るなど、最近の馬鈴薯原種の生産現場を目で見ることが出来たことで、新たな知識を得となり、今後の馬鈴薯振興対策に役立っていました。

こべとこべ女性部富丘支部による「コックタルカルフェ」が11月18日、ファーマーズハウスうえで行われました。部員の皆さん企画運営し、地元野菜を使用したキーマカレー、コロッケ、南瓜などを使用したスイーツが振舞われ、74人が訪れました。

訪れたお客様は「カフェが開かれると聞いて楽しみにしてきた。店内の雰囲気も良く料理も美味しい来て良かった」と感想を話していました。



富丘女性部の皆さん腕によりをかけて作りました



たくさんのお客さんで賑わいました



地元野菜を使用したキーマカレー

1日限定のカフェ大盛況!

コックタル
カルフェ





● 古川部長(右)より説明を受ける皆さん

日本製薬工業株北見工場では、といひピンクにんにくが加工される施設内を見学。参加者は簡易的な防護服を身にまとい、同工場の古川忠幸部長から各種機械の使途内容や加工工程の説明を受けました。また、見学した日は黒にんにくのパッケージをしているので一つ一つ手作業で丁寧にパッケージされていく様子を見学しました。参加者は「加工するなら大きいじんにくの方がよいのか」などの質問が

JJAといひ女性部とフレッシュミセス部会の役員による視察研修が11月19日に行われ、役員15人が参加しました。

今回は「町内にある農業関連施設を見学し自分たちの作った農作物がどの様に市場へ出回るのかを確認しよう」をテーマに日本製薬工業株北見工場と玉葱集出荷選別施設を訪問。

JJAといひ女性部とフレッシュミセス部会の役員による視察研修が11月19日に行われ、役員15人が参加しました。

町内で学ぶ！作った農作物はどこへ

～女性部・フレッシュミセス部会役員視察研修に15人が参加～

寄せられました。

次に玉葱集出荷選別施設へ。

ここはJJAが平成14年に農林水産省輸入急増農産物対応特別対策事業・野菜产地強化特別対策事業・産地強化条件整備事業で建設した施設です。

当日、施設コントラ課の佐藤孝課長と販売課の篠紫洋平課長より同施設の概要や取組内容などについてお話を伺いました。また、同施設内で



● 手作業で黒にんにくがパッケージされていく様子を見学



● 規格ごとに選別されていく様子を観察

は、玉葱が第1選別、第2選別、規格別選別を通して箱詰めされトラックに積まれ運ばれて行くところを見学。役員の中には玉葱農家が多く興味深々の様子で施設内を見学し「一日どれくらいの量が選果され出荷されるのか」「冷蔵庫の大きさは。何基貯蔵できるのか」「ロボットを

使ってパレットに荷積みを行つていてすこ」などの質問や意見が多数寄せられました。今回の視察では、あるのは知っていたけど見学は…という施設を巡り、大変ためになる話や自分たちの農作物の行先について知ることの出来た研修となりました。



● 役員視察研修に参加した皆さん

JJAといふ年金友の会 バス旅行実施される

JJAといふ年金友の会（佐藤國昭会長）は11月14日～16日、バス旅行を実施し会員41人が参加しました。

中日は「スカットボール」「輪投げ」のゲーム大会が行われ、好プレーの度に会場から大きな歓声が上りました。また、置戸・鹿の子ダムを訪問し、参加者は車窓からの風景を楽しみました。



『スカットボール』山内信之さんのショット



バス旅行に参加した皆さん(鹿の子ダム)

ごしました。

三日間の中で、宿泊所自慢の天然温泉をゆづくらと楽しみ（中には八回入った方も！）談笑するなど大いに参加者間の懇親が図られました。

JJAといふ（川上和則組合長）が主催の「新穀感謝祭」が11月19日、常呂神社で開かれ、収穫が無事終了したごとの感謝をこめて、JJA役員、各生産組織の代表、関係機関25人が出席し、玉串を奉納しました。

当JJAの川上組合長は「今年は6月の日照不足と低温、7月の台風による農地の浸水などで影響が出た。しかし、無事収穫できることは組合員各位の努力と関係機関の協力の賜物である」と感謝の言葉を述べました。

北見市へ食材贈呈

JJAといふは11月28日に地域の学校給食などで活用してもらおうと、常呂産玉葱など北見市常呂総合支所に寄贈しました。

この取組は地産地消と食育を推進し、地域農業への理解を深めてもらう事を目的に平成22年から行われ、今年での回目となります。

今回は玉葱400kg、常呂産小豆を使ったレトルトせん

むじ360パック、常呂産小麦「きたほなみ」を使った流水うどん200袋を、川上組合長から北見市の辻孝宗常呂自治区長に手渡しました。

贈呈式で川上組合長は、「子どもたちに、食を通して地元農業を応援してほしい」と挨拶しました。

これらの食材は12月から小中学校の給食や保育所のおやつに使われる予定です。



辻常呂自治区長(左)に玉葱を渡す川上組合長(右)



感謝の意を込めて
玉串を奉納する川上組合長

今年の出来秋に感謝

JAに集う意味

Vol.
4

各事業からみたJAに集う意味について①

共同販売

背景	事業の概要	効果
による天候・季節的な変動、作付や作柄による価格の不安定化が背景にある。	<ul style="list-style-type: none"> 市場動向に的確に対応するため、売値・時期・出荷先などの条件をつけずにJAに販売を委託する。 <p><u>たまねぎに例えると</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 系統として年間で必要な需要量を算出し、週単位によるJAの出荷計画を集約し、全国各エリアの需給バランスを調整する。 それでも消費が低迷した場合、系統として出荷停止や供給量の抑制を実施する。 また、作柄動向によっては、輸出に取組み国内の需給を調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> 安定供給による価格形成力の増大を図る。 市場での販売動向を踏まえた計画出荷による有利販売を実現する。 品質・規格などの統一化により市場評価を高める。 <p><u>たまねぎに例えると</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 左記の取組みを行った結果、豊作時ににおいても再生産価格が確保された。 <p>☞ 統系に結集し、機を逃さず対策を講ずることにより、マーケットに対して大きな影響力を発揮することが可能となる。</p>

購買事業(肥料を例として)

取り組み	目的と概要
予約購買	<ul style="list-style-type: none"> 全道のJAを通じ、組合員の予約数量をもとに、有利な交渉や計画的な生産による製造コスト低減、流通の合理化を図ることで、資材の安定供給を行う。
肥料共同計算	<ul style="list-style-type: none"> 肥料の原料の大部分は海外から仕入れており、原料価格の相場が流動的であることから、肥料共同計算により、肥料価格を年間を通じた価格とし、安定供給を行う。

信用事業

性格・仕組み	目的と概要
相互金融の性格	<ul style="list-style-type: none"> 組合員が資金を貯金としてJAに預け、その貯金を原資としてJAが組合員に貸し出すことで、JAは組合員同士が必要な資金の相互利用を行う。
クミカン制度	<ul style="list-style-type: none"> 営農計画書に基づき生産資材や家計費の支出を行い、農産物を収穫後、年度末に精算する仕組みは対人信用を基本としたもの。
JA総合力の発揮	<ul style="list-style-type: none"> 米や畑作物の仮渡金はJAが信用事業で預かっている貯金があることから、他部門との運用などにより効率的な資金運用が可能である。

共済事業

共済事業創設の経緯と性格

- 昭和20年に、冷害や自然災害に悩まされていた北見管内より、農家が互いに助け合う共済制度を模索したことが原点にあり、その思いは、当時の公的・強制保険である農業災害補償法とは異なる私的・任意保険として幅広い保障をめざした、農協生命共済・建物更生共済にその発想は引き継がれた。
- 保険と共に、万一の事態が起きた人に対して保障を提供する点では同じだが、共済は営利を目的とした事業ではなく、あくまで組合員の損失を補い、生活の安定を図る「相互扶助」を重んじるもの。





常呂町JAとことろ会員会									
監理	代表理事組合長	副組合長	生産担当委員長	会長	J A とことろ				
小井今石林川小野寺	原橋山木羽江田上俊	啓久茂孝規和	人敏正実広靖則	原橋洋平彰哲	大林林友	役員	役員	役員	役員
他役員	役員	役員	役員	役員	常呂町加工馬鈴薯生産組合	常呂町種馬鈴薯生産組合	常呂町玉葱振興会	常呂町農民同盟	常呂町甜菜対策協議会
他役員	役員	役員	役員	役員	役員	役員	役員	役員	役員
他役員	役員	役員	役員	役員	常呂町小豆生産組合	常呂町麦生産部会	常呂町激原馬鈴薯部会	常呂町南瓜生産組合	常呂町にんにく耕作者部会
他役員	役員	役員	役員	役員	役員	役員	役員	役員	役員
他役員	役員	役員	役員	役員	常呂町4Hクラブ	常呂町農協青年部	常呂町酪農振興会	常呂町農協女性部	常呂町農業担い手受入協議会
他役員	役員	役員	役員	役員	常呂町農協利用者年金友の会	常呂町農業青色申告会	常呂町農協女性部	常呂町農協女性部	常呂町農業担い手受入協議会
他役員	役員	役員	役員	役員					



初春

常呂町農協漁協
共同給油所

課 所	運営委員長
他	長 長 他
職員	江田役員
同 哲	山田役員
同 哲	一 哲
同 哲	希 貢 同 哲

お知らせ

常呂町農業試験成績報告 技術情報交換会開催!!

とき 平成31年2月12日(火) 13:30~16:00(予定)

ところ 常呂町多目的研修センター大ホール

内容

- ・試験成績報告
- ・基調講演 管理栄養士 佐々木 十美 氏 他

多くの皆さまのご参加をお願い致します。



金融
共済課
より

座位記帳台 登場

ゆったり座って伝票を記入いただけるよう
記帳台が設置されました。
来店時にどうぞご利用ください。

亥

年職員

今年はこんな年にします！

平成も終わり、
いろいろな新しい
ことが始まる！



生産部 施設コントラ係長
中村 克俊
S 46年5月生



管理部 営農企画課 主任技師
中股 敬二
S 34年1月生

何事もなく、
平和な1年に
なりますように！



生産部 施設コントラ課
伊能 瑞希
H 7年5月生

成長できる
年にしたい！



生産部 営農推進室
石井 槟一郎
H 7年5月生

◆組合員の名義変更

(変更日:平成31年1月1日)

(岐阜地区)岡田 均→(株)オホーツク岡田農場

(豊川地区)田渕 正彰→浩基

か？ みなさんが自分で釣ったおいしい魚を出かけてみてはいかかでしょ？

みんなも自分たために、釣りにいきたい魚を食べるために、出かけてみてはいいかかでしょ？

私は、釣りにハマっています。釣りにもいろいろな種類がありますが、その中でも、3年前に知り合いから誘われて始めた、オフショアジギングにハマっています。オフショアジギングは、ジグルアーを使って、船から魚を狙う釣りです。この釣りでは、前日の準備から始まり、朝早く起きて船に乗り、荒波を越えなければいけないといった大変な部分もありますが、自分の選んだジグに魚がかかり、腕にかかる魚の重みを感じ、上がってきた瞬間、すべての苦労が吹き飛びような最高の気分を味わうことができます。

生産部 施設コントラ課

武田 涼平

「ジギング」

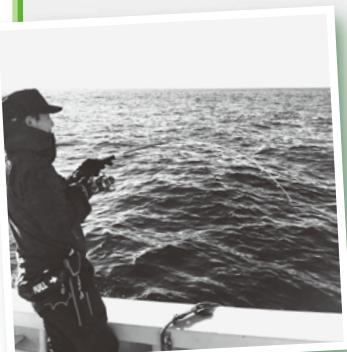
JA職員

ちふと発言

J A マン
コーナー

最終回

J A 職員からのオススメを
ジャンルにこだわらずに
紹介するコーナーです。



船に乗って魚釣りをする
武田職員

第10回理事会報告

- 風力発電事業に関する風車建設の同意について**
原案の通り同意することで決定されました。
- 営農計画書の審査方針並びに基準について**
原案の通り設定することで決定されました。
- 資金貸付に伴う農協と理事の契約について**
原案の通り貸付することで承認されました。
- 平成30年度施設利用料金の徴収について**
次の通り本年度の施設利用料金を徴収することで決定されました。
 ○育苗センター
 加工料 2,360円/冊
 加工料(ショベル) 2,395円/冊
 ○麦乾燥調整料金(暫定)
 水分
 ~15% 14,166円/t
 15.1% ~18.0% 15,833円/t
 18.1%~22.0% 17,500円/t
 22.1%~ 20,833円/t
- 平成30年度原産てん菜共同計算概算払について**
組合員別見込数量(t) × 11,000円/t の概算払をすることで承認されました。
- 平成30年度共計小豆の仮渡金について**
次の通り仮渡金を支払する事で承認されました。
○1俵あたり 28,500円

- 平成30年産共計玉葱の仮渡金について**
次の通り仮渡金を支払することで承認されました。
○コンテナ1基あたり
 生食用50,000円
 加工用20,000円
- 組合員の出資金譲渡について**
原案の通り出資金譲渡について承認されました。
- 給与規程の一部改正について**
原案の通り一部改正することで決定されました。
- 労働組合からの要求事項について**
労働組合からの要求書に基づき審議されました。
- 年末手当の支給について**
給与規程に基づき支給することで決定されました。

〈報告事項〉

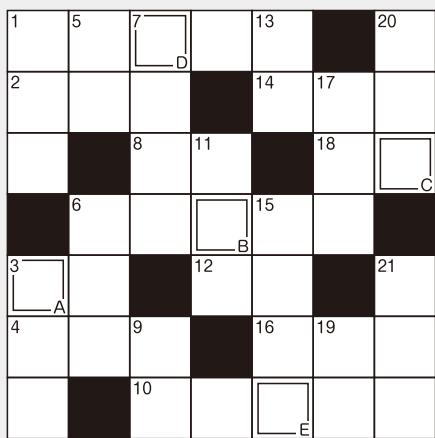
- 10月末仮決算報告について
- 内部監査報告について
- 平成30年産共計小麦(春よ恋)の概算精算について
- 平成29年産小豆の本精算について
- 関係機関への物品寄贈(JA創立70周年記念)について
- 第9回JAところ収穫“菜”的報告について
- 北海道胆振東部地震・台風21号による救援募金の支出について
- 組合員の加入・脱退について
- 農業委員会開催結果について

行事予定表

1月1日(火)～1月31日(木)

1月 1日(火)	元旦
1月 4日(金)	信用部仕事始め
1月 5日(土)	閉組日
1月 7日(月)	事務所仕事始め・新年交礼会
1月12日(土)	閉組日
1月14日(月)	成人の日

1月19日(土)	閉組日
1月24日(木)	第63回女性部通常総会
1月25日(金)	第12回定例理事会
1月26日(土)	閉組日
1月27日(日)	農休日
1月29日(火)	フレッシュユミセスの集い
1月31日(木)	決算棚卸



Crossword Puzzle ～クロスワード・パズル～

二重マスの文字をA～Eの順に並べ替えて出来る言葉はなんでしょうか?

ヨコのカギ

- 輪郭を描いた紙に目や鼻などのパートを並べて遊びます
- 1、2、3や一、二、三など
- 『春の海』や『六段の調(しらべ)』を奏てる楽器
- 小銭入れに入れる物
- 鹿児島産焼酎の原料の多くはこれ
- 空からちらちらと降ってきます
- 山田太郎さんだったらT.Y
- 怒ると頭に生えるかも
- 車窓を流れていくもの
- 剣道で使う武具
- ご来光を見るために登る人もいます

タテのカギ

- 障子よりは破れにくそうな建具
- 彼は〇〇〇東西の文学に詳しい
- 素振り中のバットが切るもの
- テンサイなどから作られる調味料
- 漫談家が巧みな〇〇〇〇で場を沸かせた
- カキやタイラギ、トコブシなど
- 〇〇〇〇考査。〇〇〇手当
- 寒い日には氷が張ることも
- 平成31年の十二支は
- 闘鶏に使われる鳥。漢字で書くと軍鶏
- 農具や収穫物を入れておく建物
- 壁の〇〇〇〇から風が吹き込んだ
- 旅客機に乗ってためる人もいます

先月の当選者・解答

8月号のまちがい探しの答えは、
「3、6、8、9、11」でした。
抽選の結果、次の方が当選しました。
おめでとうございます。

佐藤 虹心さん(豊川)

※()内は地区名です。

応募方法

答えが解った方は、別紙の応募用紙に答えと広報誌へのご意見・ご感想を記入の上、FAXにてご応募下さい。
抽選で、**おみくじ付カーリングストラップを(人数指定なし)**プレゼントします。

読者の声

★毎回、楽しく兄弟でやっています。

(富丘地区・今橋 蓮さん)

★写真がたくさんあって良いです。

(豊川地区・佐藤 虹心さん)

亥年生まれの子どもたち

新年に向けた漢字一文字を書いてもらいました!!

設問内容

- ①趣味・特技
- ②ご両親からの一言
- ③一文字を選んだ理由



関谷
せきや

楓花さん
ふうか

H19年4月生
父・英治さん

- ①読書・Youtubeを観ること・サッカー
- ②最後の小学校生活を楽しく元気に過ごしてね!家族みんな応援しているよ!
- ③来年の干支が亥年だから!



安原
やすはら

健史さん
けんじ

H19年5月生
父・裕治郎さん

- ①未菜(妹)と遊ぶこと・サッカー
- ②色々なことに挑戦して頑張ってください
- ③今年も健康でいられるように!



藤澤
ふじさわ

良世さん
りょうせい

H19年7月生
父・伸光さん

- ①サッカー
- ②勉強も遊びもサッカーも自分の納得がいくまで精一杯頑張つてください!いつも応援しています!
- ③将来に向け、学んだことを活かしたい。色々なことを学びたい!



石田
いしだ

真子さん
まこ

H19年6月生
父・雄三さん

- ①卓球・字を綺麗に書くこと・料理
- ②いつも牛舎の仕事のお手伝いありがとうございます。真子が作るご飯もとてもおいしいです。これからもよろしくね。
- ③たくさん頑張りたいから!

編集後記

- 組合員の皆様、そして当JA広報誌「光と風の大地」をご愛読いただいている皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も広報委員一同、皆様により一層「愛され、親しまれる広報誌づくり」に努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。
- 本年号も皆さんの興味を惹けるたくさんの企画・取材を考えていますので皆様楽しみにしていてください!

《営農企画課:広報担当》

今月の表紙:新たな年を迎える初日の出

平成最後となる1月号は初日の出です。

氷点下10度を下回る早朝、常呂町の絶景ポイントである東浜高台の農道から撮影しました。

風はなく、透き通った空気の中で、能取湖の上、斜里岳の左側から昇る朝日を撮影しました。

写真には写っていないませんが、さらに左側には知床半島とオホツク海が臨める絶景の場所です。これからのシーズンは流氷が押し寄せ、観光としてはもってこいでしょう。

(平成30年12月19日、午前7時00分撮影)